

日本生物物理学会サブグループ「第4回生物物理若手の会 研究交流会」報告書

文責: 竹森健太 (九州工業大学 M2, 会員番号: 10708)

1. 本サブグループの目的

生物物理若手の会における全国的な交流は、年に1度の夏の学校に留まり、対象が金銭的・時間的に余裕がある方に限られてしまう現状である。本活動の目的は、全国の若手研究者の交流の促進である。生物物理若手の会ではこれまでにオンラインの研究交流会を3度実施し、いずれにおいても30名近くの学生を中心とした参加者による、専門分野や学年の垣根を越えた活発な交流・議論が行われてきた^{[1][2]}。そこで、より自由な交流が可能なバーチャル空間を用いた、次世代を担う全国の若手研究者のより活発な研究交流の場づくりを目指し、サブグループとして活動した。

2. 活動内容の概要

本研究会は2026年2月20日に開催した。本研究会で使用したオンライン交流ツールである Gather は、予め作成された会場内で、参加者が自身のアバターを動かしながら、近くの人と会話をすることが可能で、対面に近い交流を可能とする。学部生から博士までの幅広い身分の若手研究者27名が参加した。

本研究会は、「互いの専門で殴り合おう！」というテーマで、異分野の参加者同士の研究交流の促進を行なった。ポスター発表を行う参加者には、事前に研究概要と併せて異分野の参加者に向けた説明や議論のタネを用意いただき、より多くの参加者が研究分野の垣根を超えた交流を可能にした。ポスター発表は、Gather 内に画像形式でポスターを埋め込むことで可能にした。12名の多様な分野の参加者がポスター発表を行い、活発な議論が繰り広げられた。さらに、本研究会では Gather に備わったテーブルゲームなど参加者同士の交流の促進が期待される機能を多数採用した。

開催後の参加者へのアンケートでは、回答者全員が「満足した・まあ満足した」と答えた。中には「初めましての方と交流できて楽しかったです!」、「活発な議論ができました。」、「いろいろな分野の方の意見を聞くことができ、議論もできたので楽しかった。」などの評価をいただいた。これらの評価から、サブグループの目的である「次世代を担う若手の研究交流」を達成することができたと考える。一方で、参加者からの評価には「分野に偏りを感じた。」といった参加者に関するものや、「ポイント機能がなかったので不便だった」といった Gather の機能に関するもの、「自由交流の際にトークテーマを設定するなどの動線が欲しい」といった企画に反省点もいただいた。これらの反省点を活かし、次回以降も本研究交流会を発展させていく所存である。

3. 会計報告

サブグループ活動経費は、Gather の使用費に充てた。スタッフ8人の事前テストプレイおよび当日30人が利用可能な1日プランの契約で、合計18,205円となった。支払いは研究交流会スタッフの中島大地(東北大D2)により行った(領収書は別途添付)。

4. 参考文献

[1] 竹森健太. 「若手の会だより ～若き智の祭典 研究交流会 開催報告～」. *生物物理* **64**(5), 277-278 (2024).

[2] 生物物理若手の会 研究交流会 HP <https://sites.google.com/view/bpwakatekenkyuukouryuukai/>